

ダムアワード2014授賞式 in 早明浦ダム

ダムファンが集まり、2014年のダムの活躍を振り返りながらその功績を称える「ダムアワード2014」が昨年12月27日に開催され、早明浦ダム（高知県）を「洪水調節賞」に、さらに栄えある「ダム大賞」に選んで頂きました。これは、昨年8月の台風12号及び11号襲来の際に同ダムで実施した管理開始以来100回目及び101回目の洪水調節において、これまでに蓄積したノウハウと的確な操作により、連続して襲来する台風に対しても万全の対応を執り、成果を上げたことが評価されたものです。



2月28日(土)、主催者の萩原雅紀さん(ダムライター、デイリーポータルZ・HP「ダムサイト」管理人)

をはじめとする10名以上の全国のダムファンの方が早明浦ダムへ来訪され、「早明浦ダムふれあいホール」にて同アワードの授賞式が開催されました。萩原さんから黄金のトロフィーを頂いた後、過去、早明浦ダムの管理を経験した4名の機構職員(うち3名は早明浦ダム・高知分水管理所長経験者)による、管理開始(S50.4.1)以降現在に至るまで約40年にわたって同ダムが経験してきた大きな洪水・湯水とこれらに執った対応等についてプレゼンテーションを行いました。その後ダム堤体内部の監査廊や堤体直下の減勢工等をご案内し、授賞式は無事終了しました。

今回頂いた高い評価に恥じないよう、今後とも適切な施設管理に努めて参ります。



利根川水系・荒川水系

●下久保ダム管理所(埼玉県)

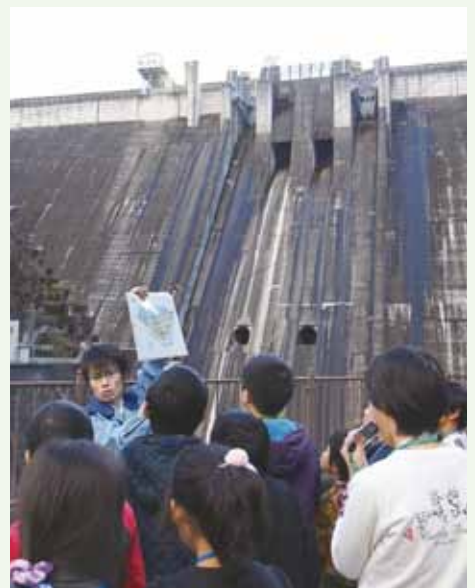
『埼玉県の水を知ろう!』子どもたちが下久保ダムを見学

埼玉新聞社70周年記念事業“たまふあんSwitchプロジェクト”の一つとして「キッズだけで行く!埼玉県の魅力発見ツアー」が企画され、第1回目となる今回は、「埼玉県の水を知ろう!」をテーマに埼玉県の水源地である下久保ダムを見学コースの一つに選んでいただきました。

平成26年11月14日(金)、埼玉県内の34名の元気な子どもたちが下久保ダムを訪れ、職員はダムの役割、水資源の大切さを説明し、普段入ることができないダム監査廊をご案内しました。

当日の様子は2月27日の埼玉新聞でも「ダムの迫力に圧倒!」という見出しで大きく紹介され、子どもたちがダムの秘密を学んでいる様子や、ダムの使命や普段使っている水の大切さについての感想が沢山紹介されました。

これからも施設見学会など積極的な受け入れを行い、水の大切さやダムの役割などについて発信していきたいと思っております。



写真提供:埼玉新聞社

淀川水系

●川上ダム建設所（三重県）

川上ダム建設事業実施計画を変更 ～甲村理事長、岡本伊賀市長を表敬訪問～

川上ダムは昨年12月19日に事業実施計画の変更手続きを開始しました。今回の変更は「平成27年度まで」となっていた事業工期を「平成34年度まで」としたほか、堤体積等のダム規模を一部変更したものです。ダムの目的や費用、貯水池の大きさなどに変更はありません。

2月5日には、甲村謙友水資源機構理事長が川上ダムの利水者である伊賀市の岡本栄市長を表敬訪問し、川上ダム事業実施計画変更の同意についてお礼を述べるとともに、引き続き事業へのご理解とご協力をお願いしました。市長からは「伊賀市の将来を考え、水源の確保が

必要なため、早く安く川上ダムの建設をお願いしたい」とのご要望をいただきました。

伊賀市並びに関係府県（三重、大阪、京都、奈良）から計画変更に対する同意の回答を得て、2月18日に国土交通大臣へ認可申請をおこない、3月31日に変更認可を受けました。

当機構としては、引き続き伊賀市及び関係府県と緊密に連携して、1日も早い川上ダムの完成を目指して事業を進めてまいります。



川上ダム建設予定地



筑後川水系

●筑後川局（福岡県）

ハラスメント相談員研修を実施

水資源機構では各事務所に「ハラスメント相談員」を設けており、2月25日(水)に筑後川局管内のハラスメント相談員を対象に研修を実施しました。研修は、ハラスメントの種類とその防止に向けての方策と相談員の行動をロールプレイングにより疑似体験するというものでした。相談体験では、被相談者から話を聞く時の難しさを痛感しましたが、丁寧な対応に心掛けることを学ぶなど、1日の研修でしたが大変有意義なものとなりました。

この研修で得た知識を活用し、ハラスメントの無い職場作りと風通しの良い職場運営に努めていきたいと思えます。

※水資源機構では、本社支社局ごとに、毎年ハラスメント相談員研修を実施しています。

JWA国際どっとねっと 水資源機構の国際業務を紹介

インドネシア共和国の河川流域機関(PJT-1)と総合水資源管理に関する覚書を締結

3月23日(月)、水資源機構(略称「JWA」)は、インドネシア共和国の代表的な河川流域機関であるブルムジャサティルタI水管理公団(略称「PJT-1」)との間において、これまで実施してきた技術協力関係をさらに発展させるため、新たに総合水資源管理に関する技術協力についての覚書を締結しました。今回、PJT-1のハリアント総裁がJWA本社を訪問してJWA理事長を表敬するとともに、両組織による覚書に署名し、今後の関係発展を確認しました。



こねっす、
ア
なあに

「ダムに行った人だけがもらえるもの」 …な〜んだ？

今やちょっとしたブームになっているので、ご存じの方も多いでしょうか？そう、正解は「**ダムカード**」です！

国土交通省や水資源機構等が管理するダム等では平成19年度より、ダムカードを作成し、ダムを訪問した方にのみ1人1枚無料で配布しています。来訪された方のみがもらえるこのカード、水資源機構では、37の施設で配布しています！

カード裏面には、各施設の「ランダム情報」や「こだわり技術」など気になる情報が満載♪

また、木津川ダム総合管理所など、管内のダムカードを集めると「オリジナルカード」もお渡ししている施設も！是非みなさんも集めてみませんか？



詳細はホームページをチェック！



ベトナム 水の

こねばなし ぼ

ベトナムはインドシナ半島東部に位置し、南北におよそ1,700kmに伸びた細長い地形を持っています。年降水量は、首都ハノイのある北部で約1,700mm、中部および南部で約2,000mmと日本と同程度かそれ以上あり、水資源が非常に豊富な国です。この豊富な水を有効利用するため、今から100年以上前のフランス統治時代から、大小含めて全国に6千を超える貯水池が建設されているそうです。その多くは、土を盛り立てて造った堤高15m以下の日本で言う「ため池」となっています。また、大多数の貯水池の水がかんがい用水として利用されており、全国で合計約80万haの農地に用水を供給されているとのこと。農業に就いている労働人口の割合は全国平均で約50%。コメの生産量は800万トンを超え、輸出量は世界第2位（2012年）となっていることから、ベトナムは世界有数の農業国ということがわかります。



台風通過後のフォン川下流域（フエ市街地）の様子



一方で、ベトナムは東南アジア各国の中でも、風水害による被害が大きい国の一つです。特に中部地方の沿岸部は、台風の常襲地であることに加え、季節風の影響とラオスとの国境に沿って続く脊梁山脈の影響が相まって豪雨が多発する地域でもあります。このような気候・地形条件によって、中部地方は毎年のように風水害、土砂災害の被害に見舞われてきました。こういった状況に対し、中央および地方政府を対象として、災害対応力を高めていく体制づくりを目的とした技術協力プロジェクトが、国際協力機構（JICA）により実施されているところです。

【執筆】八丈 裕己：JICA長期専門家（ベトナム国・災害に強い社会づくりプロジェクトフェーズ2）

2013年8月より、統合洪水管理専門家として水資源機構からクアンビン省農業農村開発局に派遣中。

ホームページリニューアル情報

水資源機構では、事務所ごとにオリジナルのホームページを作成しています。

この度本社では、トップ画面全体のレイアウト変更、バナーの統一等を行い、より見やすいページとなるよう改善しました。また、岩屋ダム管理所、旧吉野川河口堰管理所、大山ダム管理室などでも各ホームページをリニューアルしました。

各事務所で作成している手作りのホームページ、水源情報はもちろん、周辺情報や職員ブログなど様々な工夫を凝らして情報発信しています。職員だけでなく、一般の方やユーザーの方などの意見を参考にしながら、今後も改善していきたいと思っています。是非みなさんもお活用ください！

水資源機構

検索